はしがき

本書の生みの親である播磨信義が、1987年に山口大学教育学部から神戸学院大学法学部に移籍してきたとき、播磨には、憲法の授業のあり方について明確なコンセプトがあった。それは大学入学後の学生、そして法学部以外の学生にとっては法解釈中心の授業ではなく、憲法に関する歴史や政治・社会の動きと憲法との関わりを伝えることに重点を置く授業が必要であるという認識であった。今日、専門科目を受講する前段階の導入教育の必要性は多くの大学において共通認識となりつつあるが、播磨は、すでに40年近く前に、自らの教育実践を通じてそうした認識に達していた。

播磨が、新しい憲法科目の教科書のモデルとしたのは、当時一世を風靡していた情報誌『びあ』であった。播磨は、各ページの端に細かな字で書き込まれた「はみ出し情報」が人々の関心を集める点に注目した。本文だけでなく、周りに配置された資料も読ませるといふ本書のスタイルは、ここから出発した。

本書が『どうなっている!? 日本国憲法』初版(1990年)から版を重ね、30年以上にわたって数多くの大学で採用されてきたのは、播磨の見通しの正確さを証明している。

2016年の第3版出版からすでに10年近く経過した。その後の世界の情勢、日本の政治、日本の社会のありようも大きく変化した。それらは必ずしも日本国憲法の理念を活かし、発展させる方向とはいえないが、だからこそ日本国憲法についてもう一度原点に立ち返って学び直す意義もある。

今回の改訂から3人の新しい執筆者を加えた。憲法に関する歴史、国や社会の動き、そして憲法に関わる市民の動きを伝えるという初版以来のコンセプトは受け継ぎながら、新たな執筆者のアイデアを採り入れて、本の構成、執筆のスタイルにも新しい要素を加え、いま教室で学ぶ学生達のニーズにできるだけ応えるようにした。

法律文化社の野田三納子さんは、この特殊な教科書の特性を踏まえ、面倒な執筆者の要求にも誠実に応え、丁寧な仕事ぶりで本書を見事に仕上げてくださいました。記して感謝したい。

2025年3月

編著者一同